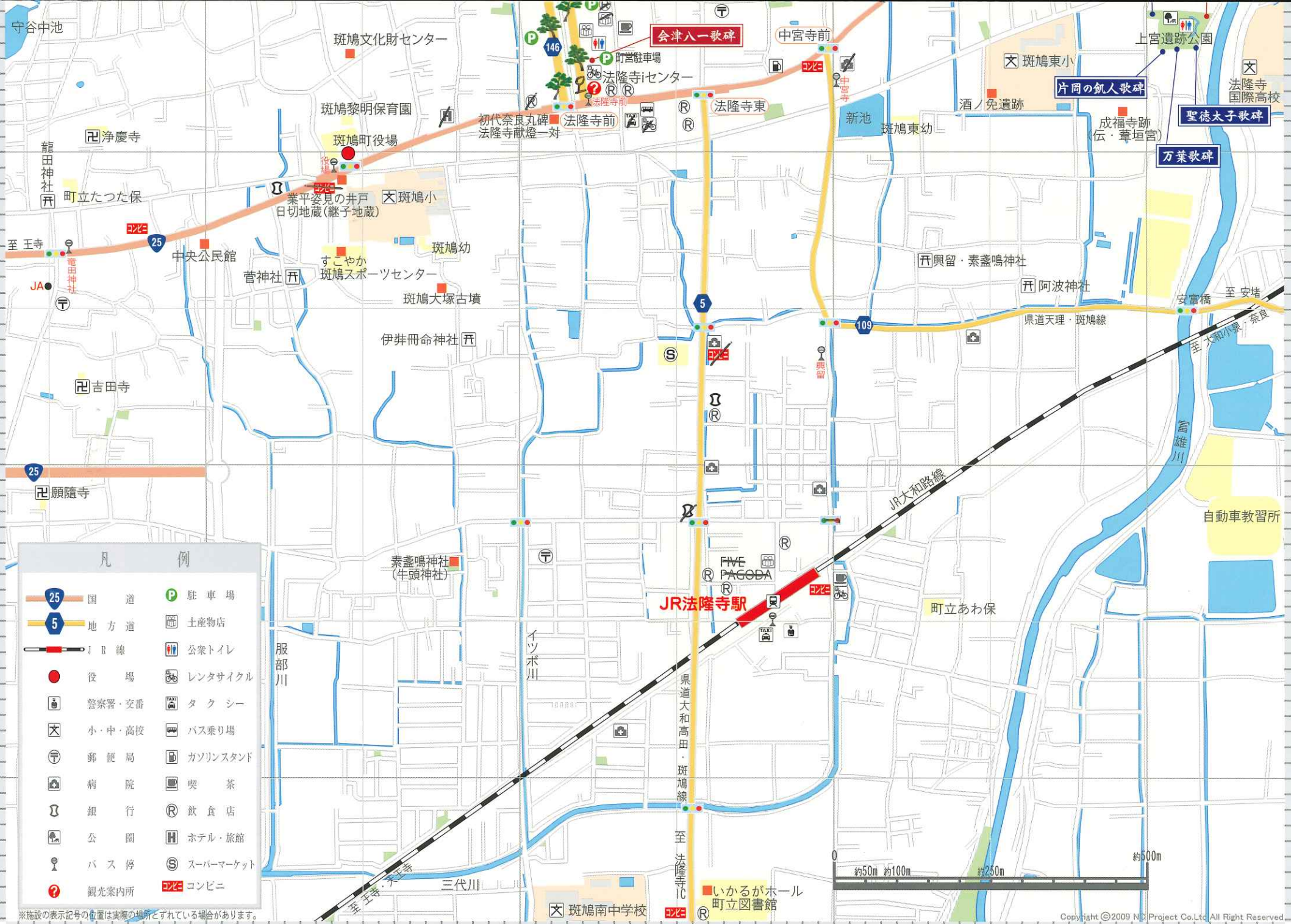
斑鳩（いかるが） 歌碑めぐり


会津八一歌碑
中宮寺前
上宮遺跡公園
片岡の飢人歌碑
聖徳太子歌碑
万葉歌碑
法隆寺国際高校
斑鳩東小
酒ノ免遺跡
成福寺跡（伝・葦垣宮）
新池
斑鳩東幼
法隆寺東
法隆寺前
法隆寺iセンター
町営駐車場
初代奈良丸碑
法隆寺献燈一対
斑鳩文化財センター
斑鳩黎明保育園
斑鳩町役場
浄慶寺
龍田神社
町立たつた保
業平姿見の井戸
日切地蔵（継子地蔵）
斑鳩小
中央公民館
すこやか斑鳩スポーツセンター
斑鳩幼
菅神社
斑鳩大塚古墳
伊弉冊命神社
吉田寺
願隨寺
素盞嗚神社（牛頭神社）
興留・素盞嗚神社
阿波神社
県道天理・斑鳩線
安富橋
至 安堵
至 大和小泉・奈良
富雄川
自動車教習所
JR大和路線
JR法隆寺駅
FIVE PAGODA
町立あわ保
県道大和高田・斑鳩線
至 法隆寺IC
いかるがホール
町立図書館
斑鳩南中学校
三代川
服部川
イツボ川
至 王寺
竜田神社
守谷中池
凡例
国道
地方道
JR線
役場
警察署・交番
小・中・高校
郵便局
病院
銀行
公園
バス停
観光案内所
駐車場
土産物店
公衆トイレ
レンタサイクル
タクシー
バス乗り場
ガソリンスタンド
喫茶
飲食店
ホテル・旅館
スーパーマーケット
コンビニ
※施設の表示記号の位置は実際の場所とずれている場合があります。
Copyright ©2009 NC Project Co.Ltd. All Right Reserved.

會津八一歌碑　中宮寺

みほとけ　の　あご　と　ひぢ　とに
あまでら　の　あさ　の　ひかり　の
ともしきろ　かも

み仏の顎と肘にこの尼寺の朝の光がさしている。心を惹かれることだ。

ここでは「ともし」は心惹かれるという意味につかわれている。「ろ」は意味のない接尾語。

會津八一歌碑　法輪寺

くわんおん　の　しろき　ひたひに
やうらく　の　かげ　うごかして
かぜ　わたる　みゆ

十一面観音の白い顔に瓔珞（ようらく、王冠から下がっている金属や木の装飾）の影がかすかに動いている。早春のふき抜ける風が見えるようだ。

この歌の面白いところは、本来動くはずのない固定された瓔珞が動いたとして、そこにかすかな風を感じたところにある。

會津八一歌碑　法隆寺西院

ちとせ　あまり　みたび
めぐれる　もゝとせを　ひとひ
の　ごとく　たてる　この　たふ

千年を超えて、3回めぐってきた百年、（千三百年）をまるで1日のようにこの五重塔は立っている。歌碑は五重塔を仰ぎ見ることのできる三経院横にたつ。

會津八一歌碑　法隆寺東院

あめつち　に　われ　ひとり
ぬて　たつ　ごとき　この
さびしさ　を　きみ　は　ほほゑむ

この天地に自分一人でたっているような思いで見上げる私の寂しさを、君（救世観音）はほほえんでおられる。

法隆寺の北側の民家に設置されていた歌碑を移設したもので、救世観音をまつる夢殿の北側に立つ。

會津八一歌碑　上宮遺跡公園

いかるが　の　さとの　をとめ
は　よもすがら　きぬ　はた
おれり　あき　ちかみ　かも

斑鳩の里の娘たちは夜がふけるまで機を織っている。秋が近づいてきたからだろうか。

法隆寺村に滞在した會津八一が夜に散歩をした際に機織りの音に気を止めた。絵は五重塔ではなく百万塔。

會津八一歌碑　法隆寺iセンター前

うまやど　の　みこ　の　まつり　も
ちかづきぬ　まつ　みどり　なる
いかるが　の　さと

厩戸皇子（聖徳太子）のお祭りも近づいてきた。松の緑も美しいこの斑鳩の里に。

この歌は聖徳太子の一，三〇〇年遠忌を目前に法隆寺村に来た際に詠んだ歌である。

正岡子規句碑　法隆寺

法隆寺の茶店に憩いて
柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

当時はこの鏡池付近に茶店がありました。

在原業平歌碑　上宮遺跡公園

ちはやふる
かみよもきかず
からくれなゐに　水くくるとは
たつた川

千早（ちはや）ぶる神代（かみよ）もきかず龍田川（たつたがは）からくれなゐに　水くくるとは

大昔の神々の時代においても聞いたことがないだろう、竜田川が川面に浮かぶ紅葉で紅に染まっている光景の美しさは。

万葉集歌碑　上宮遺跡公園

斑鳩之　因可乃池之
宜毛　君乎不言者
念衣吾為流

斑鳩の因可（よるか）の池のよろしくも、君を言わねばおもひぞ吾がする。巻12－3020

斑鳩のよるかの池ではないけれど、人がよろしくあなたのことを言わないので、私は思い悩んでいます。

香淳皇后歌碑　中宮寺

中宮寺の　都い地　のうちに
しつも利天　さゝん久王の花
清ら可耳　佐久

中宮寺の築地のうちにしつもりてさざんかの花清らかに咲く。

香淳皇后の女官長であった北白川禅子（祥子）氏による書。

片岡の飢人歌碑　上宮遺跡公園

いかるがや　富の緒川のたえばこそ
わがおほきみの
み名をわすれめ

斑鳩や　富の小川の絶えばこそ、我が大君の　御名を忘れめ　斑鳩の、富雄川の水が尽きることがない限り、この聖徳太子の御名を忘れることはないだろう。

聖徳太子から食物を与えられ、衣をきせかけてもらった飢人の返歌。飢人は亡くなり、埋葬されたが、墓に遺体はなく、衣がたたんでおいてあったという。聖徳太子はその衣を再びお召しになったという。

聖徳太子歌碑　上宮遺跡公園

しなてるや　片岡山に　いひにうゑて
ふせる旅びと　あはれ　親なしに　なれなりけめや
さす竹の　きみはやなき　飯に飢ゑて
こやせる旅人　あはれ　あはれ

しなてる片岡山に飯（いひ）に飢（ゑ）て臥（こや）せるその旅人（たびと）あはれ親無しに汝（なれ）生（な）りけめやさす竹の君はや無き飯に飢て臥せるその旅人あはれ

片岡山で聖徳太子が飢えた人が道に臥していたので、名を問うたが返事がなかったので、太子はこれを見て食物を与え自分の衣を脱いでその人を覆い「安らかに寝ていなさい」と語りかけ、詠んだといわれる歌。